



# 世工振ニュース

編集・発行  
 公益社団法人 世田谷工業振興協会  
 〒154-0004 世田谷区太子堂 2-16-7  
 世田谷産業プラザ 2階  
 TEL (03) 3421-2863 FAX (03) 3422-4777  
 E-mail: info@setagaya-ia.or.jp  
 URL: <https://www.setagaya-ia.or.jp/>

## 【世工振】「区内事業所バス見学会」を4年ぶりに開催

世田谷区在住、在勤の方々を対象に、世田谷区内のものづくりや技術への理解と関心を高めることを目的とした「区内事業所バス見学会」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていました。4年ぶりに開催され、2月28日（火）春を思わせる陽気のなか、18名の方々に参加して頂きました。

用賀駅を出発したバスは最初の見学施設である大蔵にある「世田谷清掃工場」へ。参加者は巨大なごみパンカ（収集されたごみをためる場所）や、ごみクレーン（ごみをかき混ぜ焼却炉に投入）

など、普段見ることができない設備に目が釘付けとなっていました。

続いて隣接する「資源循環センター（リセタ）」は、ガラスビンのリサイクル施設で、

こちらではビンがコンベアで搬送され、色で自動選別されたのち破碎される様子を見学。ガラスビンは最終的に細かいガラスカレットとなり再利用されるとのことでした。

最後に用賀へ戻り「株式会社小原工業」さんを見学。同社では主に義肢装具（義手や義足など）の材料を製造しています。1階の工場には、削ったり、曲げたり、穴を開けたりするための工作機械が沢山あり、実演付きで解説をいただきました。参加者は、建物の外観からは想像できない工場の内部に興味津々の様子でした。

当日ご参加、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



## 【世工振】小学校へ理科実験の出前講座

2月20日（月）、区立松原小学校において、新BOPの1～3年生を対象とした「楽しい理科実験教室」を開催し、48名の児童が参加しました。新BOPとは、子育て家庭への支援とともに自由な遊び・体験・交流の場を確保し、学童クラブの児童と統合した子どもの健全教育を図るための事業です。

東京工業大学の卒業生の集まりである「くらしか（蔵前理科教室ふしぎ不思議）」の6名の先生を迎え「ギンギシプロペラ」の実験を行いました。竹串でプロペラが回る仕組みや、振動で起きる色々な現象についてゲームを通して学ぶなど、理科の楽しさを満喫していました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



## 【世田谷区】会員企業訪問記 ④（工業・ものづくり・雇用促進課より）

世田谷区 工業・ものづくり・雇用促進課の世工振会員企業訪問記、4回目です。

### 野間縫装有限会社（ワーキングウェア展示場・製造販売） 12月12日訪問

野間代表取締役社長と営業部課長より事業のご説明をいただき、1階の作業場を見せていただきました。同社は昭和23年に日本橋で創業され、その後港区赤坂や青山で事業を営んでこられました。環七開通後間もない昭和43年に現在の世田谷区代田に移転し、営業所・工場・ショールームを一つに集めユニフォームセンターという形態にされたとのことです。

高度経済成長期には多くのユニフォームを手掛けられたとのことで、当時の貴重な写真や生地サンプル付きのカタログなども見せていただきました。

現在は多くの縫製工場が海外で展開している状況もあり、自社生産からB to Bのユニフォーム販売に事業の軸足が移りつつあるとのことです。作業服は目的や使用する環境によって必要な機能が異なることから専門的な相談も多く、そこにはかつて多くのユニフォーム類を生産されていた同社の強みが発揮され、お客様からの信頼につながっているとのことです。現在はネット等で簡単に発注もできますが、継続的な使用を考慮した商品の選定や、様々な社員の方のサイズの違い等に対応するためにも対面での会話を重視されておられ、ネットから対面での取引に変更されたお客様もいらっしゃるとのことです。一方で最近ではユニフォームを採用している会社は少なくなっているものの、建設業や介護、飲食等ではまだまだ多くの需要があり、そうした方々が生き生きと働けるような、デザインも優れた製品が増えているとお話も伺いました。

ユニフォームはその機能性に加え、デザインも働く上でのモチベーションやサービス向上につながる点で大変重要です。そうした様々な要求に的確に答えるうえでも「ものづくり」のノウハウが発揮され、高い信頼性につながっているのだと改めて実感しました。



年末のお忙しい中、丁寧にご対応いただき、本当にありがとうございました。

### 山口電機工業株式会社（自動車部品及び用品の開発・製造・販売） 12月13日訪問

山口代表取締役社長より事業のご説明をしていただきました。

同社は昭和21年に祐天寺で創業され、昭和31年に現在の世田谷区池尻に移転されました。その後、秋田をはじめ海外に工場を展開されるなど事業を拡大され、現在に至っているとのことです。

いまや車の標準機能であるバックアラームを昭和38年に世界で初めて開発されました。その開発の裏には子どもが後退しているトラックにはねられてしまう事故をニュースで見て、このような事故を減らすために開発したというお話しを伺いました。また、アラームは厳しい環境での使用に耐えられる必要があります。熱、水圧、電圧など様々な過酷な試験を実施し、高い品質が保証されているというお話しを伺い、その発想力、技術力により私たちの安全、安心に繋がっているものと感じました。

現在はハイブリッド車や電気自動車が拡がりを見せていますが、街中を走る自動車は今もなおエンジン車の割合が圧倒的に高い状況です。同社ではこうした自動車を長く使い続けるためのアフターマーケット事業も幅広く展開され、イグニッションパーツなどエンジン周りの補修部品メーカーとしても高い評価を得ています。メーカーが製造を中止してしまった部品等をはじめ、世界中から寄せられる多様なニーズに良質な製品で応える、自動車業界には欠かせない企業であると感じました。

安全を出発点に、自動車業界の未来を見据えながら、同時に今あるモノを大切に使い続けるという同社の高い企業精神と技術力はSDGSの時代にあってますます重要性を増しているように感じました。年末のお忙しい中、丁寧にご対応いただき本当にありがとうございました。

